

日本図書館情報学会会報

No.152

2014年2月

日本図書館情報学会事務局

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学教育人間科学部教育学科野末研究室内

E-mail : office@jslis.jp

学会ホームページ : <http://www.jslis.jp/>

ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019 店 口座番号=当座 0045759 口座名義=日本図書館情報学会

2014年春季研究集会の研究発表申込について

会員各位

日本図書館情報学会会長

根本 彰

2014年の春季研究集会を下記の要領で開催します。研究発表申込の受付を開始しますので、〈発表募集要領〉および〈研究大会・春季研究集会における発表のルールについて〉をよくお読みのうえ、ふるってご応募ください。春季研究集会の円滑な運営のため、募集要領、発表ルールの遵守を重ねてお願いいたします。

春季研究集会関係の情報は、学会のホームページでも随時、提供します。

会員多数のご参加をお待ちしております。

記

主催：日本図書館情報学会

日時：2014年5月24日（土）10:00～18:00（予定）

場所：日本女子大学 目白キャンパス

<http://www.jwu.ac.jp/unv/access.html>

住所 〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

最寄り駅 JR山手線「目白」駅徒歩約15分

都営バス（学05、白61）「目白駅前」乗車—「日本女子大前」下車

参加費：正会員 1,000円、学生会員 無料、非会員 3,000円（予定）

〈発表募集要領〉

応募資格：日本図書館情報学会の正会員および学生会員（共同発表の場合、筆頭発表者が正会員または学生会員であること）

発表時間：1件 30分（発表時間 20分，質疑応答 10分）

発表言語：日本語もしくは英語であること。どちらの言語の場合も，申込，要綱，発表，記録まで同一言語とすることを条件とします。英語での発表も受け付けますが，多くの聴衆が日本語での発表を期待している現状に鑑み，基本的には日本語での発表が望ましいと考えます。

申込方法：研究集会発表申し込みウェブサイト（<http://jslis-kenkyu.appspot.com/submit>）から必要事項を記入の上，お申し込みください。なお，受理された申込書は Web 上で公開する予定です。あらかじめご承知おきください。

申込締切：2014年3月26日（水）24時必着

申し込み直後に申込みを受け付けた旨のメールを差し上げます（受理の連絡はまた別途行います）。申し込んだにもかかわらずメールがない場合，トラブルの可能性がありますので，研究委員会（kenkyu@jslis.jp）までにご連絡ください。

発表要旨の提出：発表することが決まった場合には，A4判で4枚の発表要綱を作成し，2014年4月24日（木）までに原稿を研究委員会ウェブサイトを送っていただきます。なお，要綱提出の締切日は前後することがありますのでご了解ください。要綱の作成方法などに関しては，発表申込受理者にご連絡いたします。

発表のための機材：パソコンによるディスプレイ（PowerPoint）装置が使用可能です。その他の機材をご要望の場合には，研究委員長の安形までお問い合わせください。

優秀発表賞：研究委員会における審査において，研究内容・発表技法という観点から優れた発表を行ったと判断された登壇発表者を対象として優秀発表賞を授与いたします。優秀発表賞については，学会ウェブサイト並びに学会誌に掲載される研究大会・春季研究集会概要において公表いたします。

〈日本図書館情報学会研究委員会 春季研究集会担当／研究委員長〉

〒180-8629 東京都武蔵野市境 5-24-10 亜細亜大学 安形輝気付

E-mail : agata@asia-u.ac.jp

〈研究大会・春季研究集会における発表のルールについて〉

研究大会および春季研究集会は次のようなルールの下に統一的に運用されています。発表希望者はルールをご確認のうえ，発表申込をしてください。

- (1) 個人会員（正会員・学生会員）は研究大会および春季研究集会において同様に発表の権利をもつ。
- (2) 研究発表は他で公表していないオリジナルなものに限るものとする。
- (3) 個人会員が一度の研究大会あるいは春季研究集会において個人発表および共同発表の筆頭発表者となることは，合わせて1回を原則とする。
- (4) 共同研究の筆頭発表者は個人会員でなければならない。
- (5) 発表要綱の原稿は，発表内容を論文の形式で記述するものとする。
- (6) 発表プログラム公表後のプログラム（発表タイトル，発表者，発表内容，発表時間）の変更は原則として認めない。どうしても変更せざるを得ない場合には，要綱提出の1週間前までに研究委員長に理由を付して変更を申し出ること。
- (7) 発表申込，要綱作成，発表，発表後の抄録提出は同一言語で行うこととする。その際の言語は，日本語もしくは英語で行うものとする。

創立 60 年記念式典（2013 年 10 月 13 日）会長式辞

日本図書館情報学会の 60 年、そしてこれから

日本図書館情報学会会長

根本 彰

1. はじめに

本年は、日本図書館情報学会が 60 周年を迎えた節目の年にあたります。その研究大会を、私の所属する東京大学で開催することができたのはたいへんうれしいことです。昨日から何回か申し上げていますが、本学会は 1953 年にできましたが、東大は翌 1954 年の第二回および 1957 年の第五回の研究大会会場校でした。今回はそれ以来、56 年振りの開催です。

2. 学会の略史

本学会の創立は、1950 年にできた図書館法で司書・司書補の養成が大学で行われることになったために、図書館学の研究そして大学における養成教育の基盤をつくることが必要になったことによります。まだ、大学での養成は行われていなかったため、ベテランの図書館員が司書講習の講師になる必要があり、そういう人たちを集めて 1951 年に最初の専門指導者講習会が開かれたのが東京大学図書館でした。また、できたばかりの東京大学教育学部に図書館学講座が設置されたのもこの年です。つまり、東大は戦後間もない図書館学揺籃の時期に、慶応義塾大学などと並んでその研究教育の拠点としてスタートしているわけです。

本学会はその後、1964 年に図書館短期大学ができた頃から事務局がそちらに移されます。その頃から多くの大学に司書課程ができることにより、学会は大きくなっていきます。1980 年代になると、図書館情報学を初めとして、駿河台大学、愛知淑徳大学などに図書館情報学を専門にする学部・学科がつけられます。1970 年代から 1980 年代にかけて図書館学から図書館情報学への変更が見られるようになります。

しかしながら、学会の名称が日本図書館情報学会に変更されるのは、1998 年とだいぶ遅くなった時期です。その背景には、図書館情報学とは何なのかについての長い論争の歴史があったと考えることができます。一方に、図書館法で規定された司書・司書補を養成するという本学会創設当初の課題をそのまま引き継いでいるということがあります。他方、とくに 1980 年代以降になって、コンピュータ科学の発達により図書館サービスのかなりの部分がそれと密接な関係をもつものに変わっていきました。書誌情報システムやデータベースの設計、構築、運営、評価といった側面を展開すること、そして、情報利用者の行動を出発点にパラダイム構築をしてきたアメリカの新たな図書館情報学の影響を強く受けるようになったこともあります。

つまり、20 世紀末になって学会が図書館情報学の名称を選んだのは、そういう幅のある対象の全体を含んだ活動を行うことについて合意をつくることができたということができます。今から 10 年前の 2003 年に、筑波大学で開催された研究大会は学会創立 50 周年の記念大会でした。その際には、アメリカ・ミシガン大学からジョン・デュランス教授をお呼びして記念講演をしていただき、その後に図書館情報学教育をテーマにしたシンポジウムが開催されました。

本日のこの会では、それから 10 年が過ぎて、この間に学会は何をしてきたのかを報告したいと思います。

3. この10年間にやったこと

実は、この年2003年はLIPERプロジェクトの第1年目の年でした。LIPERとは、アメリカ図書館情報学教育協会が図書館情報学教育の見直しと再構築を目的に、先ほどのデュランス教授が代表者として行ったKALIPERプロジェクトの日本版で、この年から、当時の上田修一会長を研究代表者として科学研究費を受けて始めました。その3年間の研究成果が2006年春に出されたLIPER報告と呼ばれるものです。そこには、大きく言って二つの改革案が提出されていました。

一つは、日本の図書館情報学教育が少数の図書館情報学専門職養成を行う大学課程と多数の司書養成のための大学課程とに分かれているわけですが、両者の歩み寄りを促すために統一的なプランを作成するというものです。司書課程は、専門課程のコア領域にあたるものとし、コアを学んだあとより専門的なものに移れるようにするようなカリキュラムの構造を示しました。

そして、二つ目にこの歩み寄りを促進する手段として位置づけたのが図書館情報学検定試験でした。コア領域について50問の択一式問題を作成して、学習の自己評価に使えるものにしようということでした。日本社会では、試験が学習を促す効果や教育的な評価手段、社会的な認知度などの点で大きな力を持っていることは確かであり、ひとまずこれをこの領域に導入してみたわけです。

試験は2007年度から準備を始めました。そして、有料公開された最初の年である2010年度に238人の受験者があり、これは徐々に増えて、昨年2012年には299人という成果です。しかしながら、目標としてきた500人には遠く及ばず、これを学会の事業として今後継続するかどうかをきちんと評価しなければならない時期に差し掛かっています。このことについては、先ほどの臨時総会でも申し上げました。

4. これから

LIPERのことを中心にお話ししてきましたが、学会はもちろん研究発表の場であることが第一の機能です。春季研究集会、研究大会における口頭発表および学会誌における論文の査読と公表がもっとも重要な使命であり、これは今後とも継続されます。昨日からの研究発表を聞いていますと、研究者によって図書館情報学がさまざまな方向に展開されていることがわかり、頼もしく思います。学会の研究の成果を評価する事業としては、学会賞や学会奨励賞に加えて、論文賞を新たに始め先ほど初めての表彰を行いました。さらに、今期から口頭発表における優秀発表についても公表しています。

この間、図書館情報学のコミュニティ全体を見渡してみますと、明らかに世代による変化が見られます。団塊ジュニアが多く若手研究者として引っ張ってきた時代がありましたが、そのあとの世代は大学院生も含めて徐々に数が減っている傾向がありました。しかしながら、また最近になって若い研究者が新しい発想の研究を開始しています、他方で、社会人大学院が普及し、図書館現場の人たちの研究活動が盛んになっています。

こういうことを前提に考えてみますと、学会はこれまでも増して教育面での活動を重視する必要があります。その場合には、本日理事長さんにおいでいただいている日本図書館協会や日本図書館研究会との協同も考える必要があるかもしれません。

最後に、6年間会長職を務めさせていただいた私は、今年度をもって終了となります。長いことありがとうございました。なお、近々、役員選挙が予定されています。次期の執行部体制が固まれば、引き継ぎをきちんと行うこととお約束いたします。

本日は本学会会長としてそして会場校の責任者としてご挨拶申し上げます。

日本図書館情報学会関係の一次史料のデジタル化について

学会史資料デジタル化特別委員会委員長
池内 淳

学会創立 60 年を迎えるにあたり、日本図書館情報学会に関わる包括的な史料コレクションを整備し、今後の図書館情報学の展開に寄与するアーカイブを構築することを目的として、2013 年 4 月に「日本図書館情報学会関係の一次史料のデジタル化」プロジェクトが立ち上げられました。臨時委員会「学会史資料デジタル化特別委員会」では、学会所蔵の史料全体の把握、電子化のための史料選別作業および史料の整理、学会関連史料リストの作成、1950 年代～1960 年代史料の電子化（委託）を進め、このほど、今回のプロジェクトの対象となる資料の整理と電子化作業を終了しました。

整理済み一次史料は (1) 学会事務文書（学会規約関連資料、学会経費関連資料、学会行事関連資料、学会刊行物関連資料）、(2) 委員会関係文書（議事録、役員選挙関連資料）、(3) 会員関係資料（入会・会費納入・会費納入に関する通信、学会受賞者リスト）、(4) 学会刊行物（名簿、日本図書館情報学会会報、日本図書館学会総会・研究大会発表要綱）、(5) その他の資料（研究大会関係資料）からなります。これらの文書のうち、研究大会要綱集、会報、1950 年代から 1960 年代の事務文書を PDF ファイル・OCR 認識可能な形式に電子化しました。

今回電子化された文書には、日本の図書館学史に関する数多くの貴重なデータが含まれています。本プロジェクトの成果物である学会史一次史料リスト、電子化史料リストおよび電子化ファイルは広く学会員で共有し、学会員のみなさまのご希望に応じて随時開示していく予定です。研究のために本プロジェクトデータの利用を希望される方は、下記にご連絡ください。

連絡先：

学会史資料デジタル化特別委員会委員会：yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp（2014 年 3 月末まで）

学会事務局：office@jslis.jp（2014 年 4 月以降）

『図書館情報学用語辞典』第 4 版の刊行および割引販売について

事務局・用語辞典編集委員会

本学会用語辞典編集委員会の編集による標記が刊行されました。2007 年に刊行された第 3 版の収録語を見直し、現時点での最新の情報にあわせて更新したものです。本学会会員向けの価格にて購入が可能ですので、研究・教育・学習にあたり、ご活用いただければ幸いです。なお、詳細は、本号に同包いたしました出版社からの案内をご覧ください。

委員会・事務局より

『日本図書館情報学会誌』投稿募集

『日本図書館情報学会誌』の投稿先は以下の通りです。投稿は随時、受け付けています。投稿に際しては「投稿規程」と「執筆要綱」をご参照ください。(編集委員会)

- ・投稿先：日本図書館情報学会編集委員会 (journal@jslis.jp)
- ・投稿規程：http://www.jslis.jp/journal/c_reg_100301.pdf
- ・執筆要綱：http://www.jslis.jp/journal/w_out_100601.pdf

会員情報変更・退会および会員情報管理について

住所等の変更については、学会ウェブサイトの「会員情報変更届」(http://www.jslis.jp/membership_3.html)にご記入いただき、事務局までお送りください。退会については特に書式はありませんので、退会理由を併記のうえ、事務局までご連絡ください。(事務局)

※ 現在、会員名簿の発行準備中であることから、ご逝去による退会以外の会員異動情報については本誌への掲載を見送っております。ご了承ください。

※ 学会受領資料は、誌幅の関係上、次号以降にまとめて掲載いたします。

お問合せ先

- ・研究助成，研究大会・集会，シリーズ出版物などについて……研究委員会 (kenkyu@jslis.jp)
 - ・学会誌（編集）について……編集委員会 (journal@jslis.jp)
 - ・国際交流活動などについて……国際委員会 (intl@jslis.jp)
 - ・ウェブサイト，メールマガジンなどについて……総務委員会 (somu@jslis.jp)
 - ・会員情報，会費，学会誌（発送），学会報などについて……事務局 (office@jslis.jp)
- ※学会ウェブサイトもご覧ください (<http://www.jslis.jp>)

『図書館情報学用語辞典（第4版）』の訂正とお詫び

同書の記述に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

x ページ「執筆者」下から10行目

(誤) ……堀込静香 前川和子……

(正) ……堀込静香 米谷優子 前川和子……